

X会議での指摘事項一覧

No	回	議題	指摘事項の内容	担当局	現状報告	期限	実施済
4	第1回 (7月)	経営分析の経過報告	CLレベルの課題については、都市計画的な目線も含め、土地とお金を管理する専門の局を新しく作るなど、集中的に取り組む体制を作るべき。	財政・変革局	次年度の組織編成に向けて組織・体制を検討・協議する。	R6年度末	
5	第1回 (7月)	経営分析の経過報告(公園)	現在の1,700公園は、拡大しすぎているのではないかと。データを含め見直す必要がある。	都市戦略局 都市整備局	北九州市の現状や他都市の状況等を整理し、公園保有量の適正水準について検討する。	R6年度末	
6	第1回 (7月)	経営分析の経過報告(公園)	公園の管理は、10年後も公園愛護会を前提として本当に大丈夫なのか、真剣に考える必要がある。	都市戦略局 都市整備局	持続可能な公園の維持管理の具体的な手法を検討する。	R6年度末	
7	第1回 (7月)	経営分析の経過報告(公園)	直営による公園管理は根本的に時代遅れ。外郭団体やNPO等が全体をみてくれるような体制づくりや、区役所への分権化を考えるべき。	都市戦略局 都市整備局	持続可能な公園の維持管理の具体的な手法を検討する。	R6年度末	
8	第1回 (7月)	経営分析の経過報告(子育て支援)	民営ですごくカッコいい子育て施設を運営しているNPOや、ベンチャー企業の力を借りるべき。	子ども家庭局	民連携の視点で子育て施設の運営方法を検討する。	R6年度末	
9	第2回 (8月)	冒頭あいさつ	文化施設については、現状維持ではなく資源の配分をどう考えるのが良いか、本当に楽しさを与えるラストワンマイルの持っていく方をどうするのか、運営主体をどうしていくのか考える必要がある。	都市ブランド創造局	経営分析「文化振興施策」で他都市視察や調査を実施するなど、適切な運営形態を検討する。	R6年度末	
10	第2回 (8月)	経営分析	Bは中期でCは長期というのはおかしい。ぱったり決めれば3年で出てしまふCはいっぱいある。これでは難しい課題はすべて5年先に先延ばしになってしまう。事務局のガイダンスが間違っている。	財政・変革局	区X方針や経営分析において使用する「課題レベル」の定義の明確化し、市役所内部で共有する(実施済み)。	R6.10	○
13	第2回 (8月)	経営分析(文化振興施策)	市の施設はどれもチラシがめっちゃ多い。美観と利便性を考えて総点検する必要がある。	都市ブランド創造局	文化施設におけるチラシの設置状況を総点検し、課題の洗い出し及びその具体的な改善(不要なチラシの撤去、設置場所の変更等)を行った。	R6年度末	○
14	第2回 (8月)	経営分析(文化振興施策)	政令市クラスでミュージアムを全部直営でしている都市は少ない。事務職員の数がすごく多く、合理化・集約化・民間委託等の選択肢を検討すべき。	都市ブランド創造局	経営分析「文化振興施策」で他都市視察や調査を実施するなど、適切な運営方法を検討する。	R6年度末	
15	第2回 (8月)	経営分析(文化振興施策)	複数局が様々なミュージアムを所管している。縦割りをやめ、市のミュージアム全体のあり方を考えるべき。	都市ブランド創造局	所管する施設の役割や運営形態など今後の方向性を整理する。その際、他局が所管する施設の設置状況を踏まえて検討する。まずは政策分野別に施設のあり方を整理することを優先し、市のミュージアム全体のあり方については今後の検討課題とする。	R6年度末	
16	第2回 (8月)	経営分析(文化振興施策)	ホールについては、一般市民が利用する施設は、地元サービス施設と同じようなものとして、地域住民やボランティアなど地域に返していくべき。	都市ブランド創造局	経営分析「文化振興施策」において、ホールの使命・役割を明確化した上で、市民利用や興行目的利用などの優先順位の考え方を整理する。	R6年度末	
17	第2回 (8月)	経営分析(文化振興施策)	文化施設がすごく多い。特にミュージアムが多い。はたしてたくさん施設がこの人口で必要なのか考えるべき。他都市と比べて多くないという資料があったが、精査する必要がある。大都市は民間ミュージアムが多いという特殊事情もある。	都市ブランド創造局 財政・変革局	①文化施設の設置・運営状況について、北九州市及び他都市の状況を整理する。 ②文化施設の設置・運営状況を踏まえた公共施設マネジメントの方向性を整理する。	①R6年度末 ②R7年度末	
18	第2回 (8月)	経営分析(文化振興施策)	サイエンス・環境系のミュージアムは中身が古いという意味がない。アップデートする余裕がないのであれば、廃止や用途転換すべき。	環境局	環境学習施設のリニューアルの考え方など施設の今後の方向性を検討する。	R6年度末	
19	第2回 (8月)	経営分析(文化振興施策)	専門家を入れた財団や独立行政法人でスキルを磨いて運営すべき。直営原則が果たして良いのか。直営維持自体が異例なので、直営維持するならば説明責任がある。	都市ブランド創造局	経営分析「文化振興施策」で他都市視察や調査、直営館の強みの精査を実施するなど、運営方法を検討する。	R6年度末	
20	第2回 (8月)	経営分析(文化振興施策)	直営は、条例・規則・予算(財源)などの縛りがあり、百害あって一利なし。国立も大阪市も独立行政法人化している。今風にならないといけない。	都市ブランド創造局	経営分析「文化振興施策」で他都市視察や調査を実施するなど、適切な運営方法を検討する。	R6年度末	
24	第2回 (8月)	経営分析「公共投資」	今ある施設を全部持ち続けるのか。廃止や用途転換、民間売却などでボリュームを下げれば、公共投資のあり方の議論自体いらなくなるのではないかと。	財政・変革局	施設のあり方検討に向けて経営分析「公共投資」「公共施設マネジメント」で検討する。	R6年度末	

No	回	議題	指摘事項の内容	担当局	現状報告	期限	実施済
25	第2回 (8月)	経営分析「公共投資」	人口獲得競争の中で、市としての競争力をつけるため、子育て系の施設など新たに何か作る施設の議論もしくてはいけない。	財政・変革局	施設のあり方検討に向けて経営分析「公共投資」「公共施設マネジメント」で検討する。	R6年度末	
26	第2回 (8月)	経営分析「公共投資」	市債の残高以前に、公債費の支払いや現金ベースで結構しんどくなるということがあられるかもしれないので、その分析を加えてほしい。	財政・変革局	経営分析「公共投資」で検討する。	R7年度当初 予算案公表時	
31	第2回 (8月)	漫画ミュージアムにおける施設点検・ヒアリングの実施状況報告	「幾らだったら満足しますか」という、逆に言うと、「もっと高くても良いと思いますか」みたいな、その種の掘り下げも本当はした方が良い。安すぎると思ひすぎるという問題もある。	都市ブランド創造局	指摘を踏まえ、他の文化施設でのヒアリング時に、「いまの料金設定で満足していますか」「幾らであれば満足しますか」という風に掘り下げて聞き取るようにしている。		○
32	第2回 (8月)	講評(文化施設)	漫画ミュージアムは、都市のあるべき姿に対してどういうコミットをしているのかといった、全く別の観点から評価してほしい。	都市ブランド創造局	経営分析「文化振興施策」で他都市視察や調査を実施するなど、適切な運営方法を検討する。	R6年度末	
33	第2回 (8月)	講評(文化施設)	館の運営主体だけでなく、利用者がお互い不快にならないようにするにはどのような施設運営をするべきなのか考える必要がある。	都市ブランド創造局	施設の点検を踏まえたワーキンググループでの活動などを含めて、経営分析「文化振興施策」で検討する。	R6年度末	
35	第2回 (8月)	講評(文化施設)	どういう施設運営をすれば来場者の満足度が高まるか、組織体系や運営統治、インセンティブや処遇など構造的に検討する必要がある。	都市ブランド創造局	経営分析「文化振興施策」で利用状況の実態把握や他都市視察や調査を実施するなど、適切な運営方法を検討する。	R6年度末	
38	第3回 (10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	施設所管局でどこをどうしたいという最適化の形を提案し、それを改革部門がしっかりサポートしながら方向性がずれないようにナビゲートし、どんどん個別論を出していったほしい。	財政・変革局	施設所管局において点検に着手・実施する。点検にあたっては、市政変革推進室が各施設の関係データを整理するなどサポートを行いながら実施する。	R6年度末	
39	第3回 (10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	利用者と市民全体の違いをどう捉えるのか、一生懸命一つ一つ考えないといけない。	財政・変革局	施設所管局において点検に着手・実施する。点検にあたっては、市政変革推進室が各施設の関係データを整理するなどサポートを行いながら実施する。	R6年度末	
41	第3回 (10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	5市対等合併やいわゆる迷惑施設の設置の経緯、それぞれの区の特性を踏まえて具体化するべき。	財政・変革局	施設所管局において点検に着手。施設の設置経緯や、区の特性等の視点を踏まえた点検を、市政変革推進室がサポートを行いながら実施する。	R6年度末	
42	第3回 (10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	施設の多機能化だけでなく、役割の明確化を行うことも大事。例えばスポーツ施設では稼ぐための施設と地域で日常的に使うための施設。	財政・変革局	施設所管局において点検に着手。施設の設置経緯や、区の特性等の視点を踏まえた点検を、市政変革推進室がサポートを行いながら実施する。	R6年度末	
43	第3回 (10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	他局の施設に機能を移管すれば自局の施設は廃止するという、互いに他局に期待しがちであり、誰かが調整する必要。	財政・変革局	市政変革推進室がサポートを行いながら、施設所管局において点検を実施する。 各局から提出された提案については、関係部局の連携を踏まえた協議を行う。	R7年度末	
44	第3回 (10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	稼ぐための施設は新たな時代にあった施設に置き換えていく必要。その際、民間の活力を生かすことを責任持ってやる部署がないと実際に動かすのは非常に難しい。	財政・変革局	組織のあり方について令和7年4月組織編成に向け検討する。	R6年度末	
45	第3回 (10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	小学校区単位の市民センター・まちづくり協議会の設置が学校統廃合等で崩れてきたときに、地域をどう考えるか、そして地域の拠点施設の在り方を誰かが総合的に考える必要がある。	財政・変革局	地域の拠点施設の在り方をどういう体制で検討するか、令和6年12月から1月までに整理する。	R7.1	
47	第3回 (10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	上記に該当する施設は、今回のチェックリストとは別に「年内に方針を決めて下さい」と宿題を出さないとキャッチボールにならない。古いもの、人が来ていないものはとにかくリストに載せることは年内に終わってほしい。	財政・変革局	今年度経営分析を実施している事業にかかる施設について先行して点検に着手し、令和6年12月に点検を完了。	R6.12	○
48	第3回 (10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	公園も今回の報告と同じようなやり方で検討を進めた方がよい。	都市戦略局 都市整備局	経営分析「公園事業」で検討する。	R6年度末	
51	第3回 (10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	民間のノウハウの活用には、他地域の事例を権限ある人間が見に行く、民間企業にアポイントを取って営業するなど、外にでていく活動を市役所内で共有しつつ広げるべき。	財政・変革局	各分野において、他都市事例等の視察を実施。引き続き、施設のあり方の検討に向けて、他都市事例研究とあわせて民間企業への営業などを行う。	R7年度末	
56	第3回 (10月)	経営分析「公共施設マネジメント」	どれくらいの面積の集約が可能なのか、各局を巻き込んだ目標設定と、その目標で財政が立ちいくのかのやり取りが重要。	財政・変革局	各施設の点検後その状況を集約し、市の財政状況と照らし合わせた上で、目標設定の有無・設定内容を検討する。	R7年度末	

No	回	議題	指摘事項の内容	担当局	現状報告	期限	実施済
58	第3回 (10月)	経営分析「公共施設 マネジメント」	チェックリストでチェックし始めると、それに没入して本質を見逃しかねない。チェック後に現場を見る、現場の声を聞く、すりあわせていくという作業が非常に大事であり、後々の納得度に繋がる。	財政・変革局	施設所管局において点検に着手。点検にあたっては、市政変革推進室が各施設の関係データを整理するなどサポートしながら実施する。	R6年度末	
59	第3回 (10月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	状況変化に合わせ、直営、民間に頼む、頼み先がなければ自ら団体を作って人を他所から呼んでくるなど、役所の仕事の仕方・組み立て方を考え直す必要がある。	財政・変革局	下記の考え方について、第6回X会議で報告する。 【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、所管局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を所管局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	
60	第3回 (10月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	外郭団体の仕事の仕方はガラッと変えないといけない。一番大事なのは専門性をもった人材。民間から取る場合も全国から専門ノウハウを持った人を探し、例えば劇場や公園などにプロを入れていく。	財政・変革局	下記の考え方について、第6回X会議で報告する。 【マネジメント(ヒト)】 団体にとって、専門知識と高い意識を持つ人材が不可欠である。人材の確保は、サービスの質を維持・向上し、市民の多様なニーズに応えるための基盤となるため、所管局において、団体が関連する政策について今後のあるべき方向性を整理したうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を踏まえ、団体と所管局の協議により、市OBも含め必要なる人材の能力を明確化する。	R7.6以降	
61	第3回 (10月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	都庁の場合は、子会社みたいなものを作って、役所の仕事の受け皿、外郭団体を再構築していった。	財政・変革局	下記の考え方について、第6回X会議で報告する。 【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、所管局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を所管局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	
62	第3回 (10月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	外郭団体に役所のOBが行ってもいいが、その分野を経験したことのない人は問題外。	財政・変革局	下記の考え方について、第6回X会議で報告する。 【マネジメント(ヒト)】 団体にとって、専門知識と高い意識を持つ人材が不可欠である。人材の確保は、サービスの質を維持・向上し、市民の多様なニーズに応えるための基盤となるため、所管局において、団体が関連する政策について今後のあるべき方向性を整理したうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を踏まえ、団体と所管局の協議により、市OBも含め必要なる人材の能力を明確化する。	R7.6以降	
63	第3回 (10月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	外郭団体のガバナンスが緩い。理事会が年2回から4回というのは企業では考えられない。また、戦略的な議題もほぼなく、役員会として機能していない。	財政・変革局	下記の考え方について、第6回X会議で報告する。 【ガバナンス(団体の自律性)】 適切な団体ガバナンスは、透明性と信頼性を確保し、責任ある運営を実現する。これにより、質の高い市民サービスを安定的かつ公正に提供できるため、所管局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで、団体が担うべき役割を再定義する。その役割を踏まえ、団体においてガバナンス(役員体制、経営体制)を再構築する。	R7.6以降	
64	第3回 (10月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	理事会に過半数の民間企業経験者を入れて喝を入れる。常勤だと処遇や適材が見当たらない問題があるが、非常勤であれば結構入れることができる。 経営ガバナンスという視点であれば、他の分野の民間経験者でも十分機能する。理事の数を増やし、過半数が民間の人になると理事会の空気が変わってくる。	財政・変革局	下記の考え方について、第6回X会議で報告する。 【ガバナンス(団体の自律性)】 適切な団体ガバナンスは、透明性と信頼性を確保し、責任ある運営を実現する。これにより、質の高い市民サービスを安定的かつ公正に提供できるため、所管局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで、団体が担うべき役割を再定義する。その役割を踏まえ、団体においてガバナンス(役員体制、経営体制)を再構築する。	R7.6以降	
65	第3回 (10月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	外郭団体は市役所の外の仕事を積極的に取りに行く。他都市にサービスを提供して収益を得る。株式会社については目指した方がいい。	財政・変革局	下記の考え方について、第6回X会議で報告する。 【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、所管局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を所管局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	
66	第3回 (10月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	外郭団体のうち、劇場や公園などについては、北九州市のブランドや信用、大きな規模の仕事ができるなどをもっとアピールし、人材を集めるべき。	財政・変革局	下記の考え方について、第6回X会議で報告する。 【マネジメント(ヒト)】 団体にとって、専門知識と高い意識を持つ人材が不可欠である。人材の確保は、サービスの質を維持・向上し、市民の多様なニーズに応えるための基盤となるため、所管局において、団体が関連する政策について今後のあるべき方向性を整理したうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を踏まえ、団体と所管局の協議により、市OBも含め必要なる人材の能力を明確化する。	R7.6以降	
67	第3回 (10月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	外郭団体の新設を言い出せる雰囲気ではないのは分かるが、スクラップや統合をしながら、必要なのは作ればよい。一方、役割を終えたもの、もう要らないものは潰してしまう。	財政・変革局	下記の考え方について、第6回X会議で報告する。 【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、所管局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を所管局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	
68	第3回 (10月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	外郭団体側から「こういうことができる。こういうことをしたい」と市にほとんど言っていない状況。「市にはないこういうノウハウがあるのではないか」、市役所側が団体をガイドしていかないとけない。	財政・変革局	下記の考え方について、第6回X会議で報告する。 【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、所管局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を所管局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	

No	回	議題	指摘事項の内容	担当局	現状報告	期限	実施済
69	第3回 (10月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	民間の人材をトップに据えるルールが明確化していない。民間人材や理事長の報酬を業績に応じて変動させるなど、ルールをもう1回作り直さないと機動的な運営ができない。	財政・変革局	下記の考え方について、第6回X会議で報告する。 【ガバナンス(団体の自律性)】 適切な団体ガバナンスは、透明性と信頼性を確保し、責任ある運営を実現する。これにより、質の高い市民サービスを安定的かつ公正に提供できるため、所管局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで、団体が担うべき役割を再定義する。その役割を踏まえ、団体においてガバナンス(役員体制、経営体制)を再構築する。	R7.6以降	
70	第3回 (10月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	期待値が高い外郭団体等に市の幹部候補生のような若い管理職を送り込んで、実際に団体の中に入って、市役所の目で団体の強みを整理することが必要。また、その市の職員に団体が稼ぐ・役割を果たす上でこうあるべきと中から改革する経験をするの積んでもらう。 逆に団体プロパーの専門職の人たちを部長にし、市役所に1・2年出向して議会等について学んでまた団体に戻るなど。	財政・変革局	下記の考え方について、第6回X会議で報告する。 【マネジメント(ヒト)】 団体にとって、専門知識と高い意識を持つ人材が不可欠である。人材の確保は、サービスの質を維持・向上し、市民の多様なニーズに応えるための基盤となるため、所管局において、団体が関連する政策について今後のあるべき方向性を整理したうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を踏まえ、団体に不足している人材を市から派遣できる仕組みを構築する。	R7.6以降	
72	第3回 (10月)	経営分析「公民連携 体制(外郭団体)」	ガバナンスについて外郭団体の裁量権が中々ない。裁量権を持たせることで随分変わる要素がある。	財政・変革局	下記の考え方について、第6回X会議で報告する。 【ガバナンス(市との関係)】 北九州市政における団体の役割・位置付けを適切に行うことで、団体業務の適性化、サービスの質向上と持続可能な団体運営を実現するため、所管局において、団体が関連する政策についてあるべき方向性を整理し、そのうえで団体が担うべき役割を再定義する。その役割を所管局と団体で締結する「連携協定」において明記する。	R7.6	
73	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プ ロジェクト	「△検討を要する」課題については、検討結果をマネージすること。	財政・変革局	「△検討を要する」及び「×解決できない課題」については、12月に制度所管局による検討を行ったが、◎、○の課題も含めて、本質的な議論が十分に深まっていなかった事例が多く見られたため、事務局において改めて全件の「課題」を見つめ直し、真に困っている点で解決すべき内容を精査した上、制度所管局が再検討行う。結果はX会議で報告する。	R7年度当初	
74	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プ ロジェクト	「×解決できない課題」は、相手の本当に困っている気持ちに寄り添っていない。根源の課題に応える別のアプローチはできないか考えてほしい。市政変革推進室も少しナビゲートしてあげてほしい。	財政・変革局	「△検討を要する」及び「×解決できない課題」については、12月に制度所管局による検討を行ったが、◎、○の課題も含めて、本質的な議論が十分に深まっていなかった事例が多く見られたため、事務局において改めて全件の「課題」を見つめ直し、真に困っている点で解決すべき内容を精査した上、制度所管局が再検討行う。結果はX会議で報告する。	R7年度当初	
75	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プ ロジェクト	「×解決できない課題」は玉石混交で、直感で当然だと思うものでも、市政変革推進室で深掘りが甘くないか詰めたほうがいい。よく分析してほしい。	財政・変革局	「△検討を要する」及び「×解決できない課題」については、12月に制度所管局による検討を行ったが、◎、○の課題も含めて、本質的な議論が十分に深まっていなかった事例が多く見られたため、事務局において改めて全件の「課題」を見つめ直し、真に困っている点で解決すべき内容を精査した上、制度所管局が再検討行う。結果はX会議で報告する。	R7年度当初	
76	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プ ロジェクト	「×解決できない課題」は、一旦全部差し戻し。全然議論が足りていない。システム部門のやる気のなさが非常によくわかる。何もできないなんて回答にならない。	財政・変革局	「△検討を要する」及び「×解決できない課題」については、12月に制度所管局による検討を行ったが、◎、○の課題も含めて、本質的な議論が十分に深まっていなかった事例が多く見られたため、事務局において改めて全件の「課題」を見つめ直し、真に困っている点で解決すべき内容を精査した上、制度所管局が再検討行う。結果はX会議で報告する。	R7年度当初	
77	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プ ロジェクト	「×解決できない課題」で、法令上ダメというものは、他の自治体がどうやっているのかくらいは最低限調べるべき。本当にダメだという理由が書けていない。	財政・変革局	「△検討を要する」及び「×解決できない課題」については、12月に制度所管局による検討を行ったが、◎、○の課題も含めて、本質的な議論が十分に深まっていなかった事例が多く見られたため、事務局において改めて全件の「課題」を見つめ直し、真に困っている点で解決すべき内容を精査した上、制度所管局が再検討行う。結果はX会議で報告する。	R7年度当初	
78	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プ ロジェクト	電子公印システムはできないと言っているが、ある程度やっているところもあるので、もう一回洗い直すこと。	総務市民局	バンダーに電子印システムの開発について相談し、併せて国や他都市の電子印システム導入状況や関係規程を調査・研究する。R7.3までにシステム開発(構築)の可否を決定し、開発を進める場合はシステム開発の必要経費及びスケジュールを整理するとともに、関係規程の改正作業を進める。	R7.3	
79	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プ ロジェクト	これから変更されていく100近いポイント(◎、○の解決される課題)について、全職員に前向きに広報・告知してほしい。	財政・変革局	課題が解決されたものから逐次、職員用イントラネットで周知する。また、市ホームページには全件掲載済で、市民向けの広報も実施済み。	R7年度当初	
80	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プ ロジェクト	「△検討を要する」課題のフォローは、検討の期限を決めること。とにかく「順次」はやるほうがいい。	財政・変革局	「△検討を要する」及び「×解決できない課題」については、12月に制度所管局によるスケジュールを含めた検討を行ったが、◎、○の課題も含めて、本質的な議論が十分に深まっていなかった事例が多く見られたため、事務局において改めて全件の「課題」を見つめ直し、真に困っている点で解決すべき内容を精査した上、制度所管局が再検討行う。結果はX会議で報告する。	R7年度当初	
81	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プ ロジェクト	「○代替策もしくは予算次第で課題を解決」が一番問題。本当は2〜3割しかできていないというものもいっぱいある。このフォローアップが一番大切なのでよろしくお願ひしたい。	財政・変革局	◎、○の課題も含めて、本質的な議論が十分に深まっていなかった事例が多く見られたため、事務局において改めて全件の「課題」を見つめ直し、真に困っている点で解決すべき内容を精査した上、制度所管局が再検討行う。結果はX会議で報告する。	R7年度当初	
82	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プ ロジェクト(討議① 週休3日制等)	育児や介護との両立が難しいということは切実な声。ぜひ部分的な導入をまず早めにやりましょう。その中でトライアルしながらどのぐらい広げられるか考えていきたい。	総務市民局	週休3日制が可能なフレックスタイム制の全面的な試行を開始した。	R7.1	○
83	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プ ロジェクト(討議② 女性用トイレ)	女性用トイレを改修して欲しいという切なる気持ちは非常によく理解できるので、前向きにやって欲しい。一方で、様々な老朽化に伴う使いづらさがある。この建物をいつまで使い続けるかという全体感を持ちながら検討する必要がある。	総務市民局	本庁舎の老朽化等の改修も含めて全体で検討し、女性用トイレについては、増設予算の計上に向けて調整する。	R7.2	

No	回	議題	指摘事項の内容	担当局	現状報告	期限	実施済
84	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プロジェクト(討議② 女性用トイレ)	働く上でのインフラがどういった状況なのか「見える化」し、優先順位をコストとセットで、働き続ける上で必要不可欠なところからやっていくという整理が必要。	総務市民局	本庁舎の老朽化等の改修も含めて全体で検討し、女性用トイレについては、増設予算の計上に向けて調整する。	R7.2	
85	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プロジェクト(討議② 女性用トイレ)	女性用トイレは切迫した問題だと思っている。全体を考えるために足を止めることなく、検討を強力に進めてほしい。	総務市民局	本庁舎の老朽化等の改修も含めて全体で検討し、女性用トイレについては、増設予算の計上に向けて調整する。	R7.2	
86	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プロジェクト(討議② 女性用トイレ)	総務市民局と各局の役割分担と検討スケジュール(工程)を明示してほしい。また、財政・変革局と、どういったお金がかかるのか整理して教えてほしい。	総務市民局	女性用トイレについては、増設予算の計上に向けて今後の工程も含めて調整する。	R7.2	
87	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プロジェクト(討議③ 災害対応)	できるところはそれによって、それ以外のところは別のやり方を考えると水多解決と思う。昭和53年の洪水時の水道局の事例をよく調べてほしい。	危機管理室	昭和53年の水道局の事例は文書保存期間満了かつ、当時の事例に取り組んだ職員がほとんど退職しており、事例が参照できなかったが、他都市(福岡市、熊本市など)にヒアリングを実施し、最新の事例を調査した。	R7.1	○
88	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プロジェクト(討議③ 災害対応)	早く駆け付けられるということは非常に大きなメリット。できるところからやってみて、やってみたらうでのデメリットが解決できないかどうかという取組みをしてはどうか。	危機管理室	避難所の開設運営に関する職員の配置について、現状の把握(各区役所への調査(ヒアリング))、避難所と職員居住地の分布状況の確認、他都市の状況、見直す場合の課題の整理などを実施し、見直す場合の課題が明確になってきたところ。これらを元に、どういった形で実施することが望ましいか今年度中に方向性を決定する。	R7.2	
89	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プロジェクト(討議③ 災害対応)	危機管理は、職員がやりたい気持ちになるような精神的な負担の解決が非常に大事。	危機管理室	避難所の開設運営に関する職員の配置について、現状の把握(各区役所への調査(ヒアリング))、避難所と職員居住地の分布状況の確認、他都市の状況、見直す場合の課題の整理などを実施し、見直す場合の課題が明確になってきたところ。これらを元に、どういった形で実施することが望ましいか今年度中に方向性を決定する。	R7.2	
90	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プロジェクト(討議③ 災害対応)	災害対応の時は、距離によって危険もリスクも増えるので、居住地に近い人がやるメリットはある。課題もあるが、色々なやり方があると思うので、すべて検討し、対処していくべき。	危機管理室	避難所の開設運営に関する職員の配置について、現状の把握(各区役所への調査(ヒアリング))、避難所と職員居住地の分布状況の確認、他都市の状況、見直す場合の課題の整理などを実施し、見直す場合の課題が明確になってきたところ。これらを元に、どういった形で実施することが望ましいか今年度中に方向性を決定する。	R7.2	
91	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プロジェクト(討議③ 災害対応)	避難所のエリアの中に職員の住所をプロットして、濃淡がどのくらいしているのか一回把握してみること。その上で、指揮命令系統や、薄いところをどうしていくのかを分けて考えてはどうか。	危機管理室	避難所の開設運営に関する職員の配置について、現状の把握(各区役所への調査(ヒアリング))、避難所と職員居住地の分布状況の確認、他都市の状況、見直す場合の課題の整理などを実施し、見直す場合の課題が明確になってきたところ。これらを元に、どういった形で実施することが望ましいか今年度中に方向性を決定する。	R7.1	○
92	第4回 (11月)	ブラチナ市役所プロジェクト(討議③ 災害対応)	災害対応はものすごく大きな問題なので、最適化をどうするか真剣に考えてもらいたい。しっかり時間軸を切って、明確に検討を進めてもらいたい。	危機管理室	避難所の開設運営に関する職員の配置について、現状の把握(各区役所への調査(ヒアリング))、避難所と職員居住地の分布状況の確認、他都市の状況、見直す場合の課題の整理などを実施し、見直す場合の課題が明確になってきたところ。これらを元に、どういった形で実施することが望ましいか今年度中に方向性を決定する。	R7.2	
93	第4回 (11月)	スポーツ振興事業	まちなかでのアーバンスポーツ実施における道路など、他部署と協力しながら進めてほしい。	都市ブランド創造局	経営分析「スポーツ振興事業」で検討する。	R6年度末	
94	第4回 (11月)	スポーツ振興事業	今後のスポーツ行政の中におけるアーバンスポーツの取り組みの位置づけがよくわからない。スケール感、数字、投資、リターンイメージがない。	都市ブランド創造局	経営分析「スポーツ振興事業」で検討する。	R6年度末	
95	第4回 (11月)	スポーツ振興事業	もっと論理的に、北九州のスポーツのどこが優位性なのか、どこの部分に重点を置いて、今までがどうで、どこの部分に重点を置いていくのか差別化をはかる部分と、競争していく部分と、もう少しきちんと考えるべき。	都市ブランド創造局	経営分析「スポーツ振興事業」で検討する。	R6年度末	
96	第5回 (12月)	区役所のあり方検討	区役所のあり方といったときに、本庁と一体となって公助を届ける区役所と、地元と一体になって公助をサポートする区役所という2つの顔があって、この2つを分けてしっかり議論した方がいい。	総務市民局	公助の部分、共助の部分に分けて議論するよう調整。公助の部分については区長会議などで検討する。共助の部分については、新たな住民主体の地域づくりの在り方について検討を進める予定。	R7年度中	
97	第5回 (12月)	区役所のあり方検討	本庁と区役所の関係のところは市民と接触している福祉や保健等の各分野のリーダーな区役所の職員が集まって、ブラチナ市役所プロジェクトのような個別具体的な課題の掘り起こしはやはりやるのだろう。	総務市民局	1月の区長会議で「区役所の課題解決」に向けた協議を開始した。1月の会議では、現場の職員からの意見聴取方法等について議論し、各区長からは、検討の方向性や課題の掘り起こし方法についてより明確化が必要等の意見があった。2月以降も区長会議で引き続き議論を続ける。	R7.1	○
98	第5回 (12月)	区役所のあり方検討	構造問題は他都市が先行しているので、それも参考にしながら権限・役割の見直しみたいなこともやる。	総務市民局	1月の区長会議で「区役所の課題解決」に向けた協議を開始した。1月の会議では、現場の職員からの意見聴取方法等について議論し、各区長からは、検討の方向性や課題の掘り起こし方法についてより明確化が必要等の意見があった。2月以降も区長会議で引き続き議論を続ける。	R7.1	○

No	回	議題	指摘事項の内容	担当局	現状報告	期限	実施済
99	第5回 (12月)	区役所のあり方検討	市民センターという切り口で経営分析ではないけれども、もう一回しっかり見た方がよいかもしれない。或いは共助のあり方がよいかもしれないけれども、これはそこが強くないと、結局市役所のパワーも上がらない。	総務市民局	令和7年度に新たな住民主体の地域づくりの在り方について検討を進める予定であり、市民センターについても検討する。	R7年度中	
100	第5回 (12月)	区役所のあり方検討	統治機構論とサービス論は、両輪だと思うので、両方やっていく。	総務市民局	1月の区長会議で「区役所の課題解決」に向けた協議を開始した。1月の会議では、現場の職員からの意見聴取方法等について議論し、各区長からは、検討の方向性や課題の掘り起こし方法についてより明確化が必要等の意見があった。2月以降も区長会議で引き続き議論を続ける。	R7.1	○
101	第5回 (12月)	環境施策	「サステナブルシティとは一体何だ」ということ自体をきちんと作り直し、外に対してアピールするものを見えるようにするべき。	環境局	「サステナブルシティ」については、今後、全庁的に議論される予定となっている。環境局としては、環境学習施設のあり方や、カーボンニュートラル／サーキュラーエコノミー／ネイチャーポジティブといった取組の一体的なPR手法等を検討する。	R8.3	
102	第5回 (12月)	環境施策	環境学習施設について、エコタウンセンターは響灘全体を外への発信のコアとして位置付けて、環境ミュージアムと響灘ビオトープは、地元の子どもたち向けという形で割り切ったほうがいいのではないかな。	環境局	引き続き、各環境学習施設の機能やターゲットを整理し、強めるべき部分や、機能分担を含めた検討を進める。	R8.3	
103	第5回 (12月)	環境施策	環境学習であれば最先端のものを発信していく必要がある。	環境局	現状はパネル展示等が中心となっているが、最新の情報に更新しやすい映像等のデジタルコンテンツ中心の発信手法を検討する。	R8.3	
104	第5回 (12月)	環境施策	市役所は、企業が自らの技術や取組みの凄さを発信することをバックアップするような発想の転換をする必要がある。	環境局	現状、エコタウンセンターや環境ミュージアムの一部で、エコタウン企業やエネルギー関連企業の取組を中心に発信している。今後もそれら企業の取組について協働して発信していくのはもちろんのこと、それ以外の市内企業の持続可能な取組についても情報発信のバックアップを進めていく。	R9.3	
105	第5回 (12月)	環境施策	北九州市のポテンシャルのある情報を上手く発信できていないことが問題ではないか。何をターゲットに取り組んでいくのかをまず整理し、1度見た方に興味をもってもらうためにコンテンツをどう発信するか、必要な手段を考えるべき。	環境局	カーボンニュートラル／サーキュラーエコノミー／ネイチャーポジティブといった取組を総合的に展示する国内随一の拠点とすることを目指し、市の取組のほか、市内企業や団体の取組みを加え、「オール北九州」の視点でのPR手法等を検討する。	R8.3	
106	第5回 (12月)	環境施策	環境ミュージアムを残すのであれば、展示について、公害克服の時代から今に至るまで全ての環境の北九州市の取組みを見ることができ、アップデート可能なデジタルコンテンツを中心に展示していく必要がある。	環境局	環境ミュージアムについては、改めて機能やターゲットを整理し、市民向け環境学習施設としての機能を強化する。展示についても、現在のパネル中心の展示ではなく、映像等のデジタルコンテンツ中心の発信手法を検討する。	R9.3	
107	第5回 (12月)	環境施策	北九州市の環境は直近のトレンドに追いついているので、うまく発信していくことで企業誘致にもしっかりと繋げていくといいのではないかな。	環境局	引き続き、環境分野の先進的な取組を推進するとともに、より効果的に発信することで、企業誘致につなげる。	R9.3	
108	第5回 (12月)	環境施策	エコタウンの中だけに閉じるのではなく、まち全体を、どうやって脱自動車、CO2排出等のグリーンシティに変えていくのかという全体像の中で、世界をターゲットに響灘エリアをPRできるといいのではないかな。	環境局	まちの全体像については「サステナブルシティ」をテーマに、今後、全庁的に議論される予定となっている。環境局としては、環境学習施設のあり方や、カーボンニュートラル／サーキュラーエコノミー／ネイチャーポジティブを切り口とした響灘エリアの一体的なPR手法等を検討する。	R8.3	
109	第5回 (12月)	局区X方針の取組状況	課題の数が多過ぎる。数が多いと、時間・人手が足りなくなり、どうしてもやっつけ仕事になってしまう。課題の数減らしを考えた方がいい。特にBとCについては。	財政・変革局	事務局及び各局区が、X方針に定める課題を「進捗状況を的確に把握・評価できるもの」にバージョンアップさせる過程で、B・C課題について、課題数の整理を行う。	R7年度当初	